



PERSOL

パーソル 総合研究所

# はたらくソーシャル・リスニング / 24年上半期

---

## 調査結果

---

株式会社パーソル総合研究所 シンクタンク本部

目次

本報告書の目次

3P	導入／調査概要	導入
		調査概要
5P	24年上半期の投稿増加率 上位ワード	増加率 上位10ワード
		増加率 上位11-20ワード
		増加率 上位ワード グラフ
8P	24年上半期の投稿減少率 上位ワード	減少率 上位10ワード
		減少率 上位11-20ワード
10P	24年上半期のピックアップ・ワード	①ハラスメント関連のワード
		②スポットワーク関連ワード
		③退職・離職関連ワード
14P	[参考] 過去のソーシャル・リスニング分析	2023年度投稿増加率上位ワード(上位20ワード)
		2023年度投稿減少率上位ワード(上位20ワード)

近年、雇用を取り巻くトレンドは人事や経営だけではなく、一般就業者や生活者の耳目を集めるようになった。働き方改革、賃上げ、外国人雇用、リスニングなど、メディアで大きく取り上げられるようなトピックは日々移り変わっている。人材マネジメントや組織運営を時代に適応させていくにあたり、そうした生活者全体の潮流やトレンドを理解することが重要になる。その一方で、一般的に行われる質問紙調査では、こうしたトレンドの移り変わりについて即時的・直接的に把握することが難しいという課題がある。

そこで、パーソル総合研究所では、2023年より、日々更新され続ける各種SNS・ブログ・掲示板・レビューサイト等のデータをリアルタイムに分析できるツールを用いて、個人の「生の声」を収集・分析する本プロジェクトを開始した。「はたらくソーシャル・リスニング」として、より現場や生活に近い位置から、労働市場全体の動向理解に資するものとして、定期的な分析と発信を行っていく。

## 目次

## 調査概要

調査名称	パーソル総合研究所「はたらくソーシャル・リスニング／24年上半期」
調査内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・インターネット上の投稿内容から、労働・組織に関わるトピック・トレンドの現状を理解する。</li><li>・時系列での比較によって雇用関連のトレンドを動的に把握する。</li></ul>
調査対象	<p>■データ収集 日本全国のSNS、ブログ、ニュース、掲示板、レビューサイトなど日本国内10万ドメインのデータソースより投稿データ(サンプリングデータ)を取得。「労働」「人材マネジメント」「組織」「働く」関連のワードが含まれる投稿について分析</p> <p>■データ取得先 X、YouTube、各種ブログ、掲示板、各種ニュースサイト、レビューサイトなど</p>
調査方法	SNS分析ツール Quid Monitor(TDSE株式会社提供)を使用し、パーソル総合研究所分析
調査時期	2024年上半期(4月1日-9月30日)と23年同期の投稿データ比較
実施主体	株式会社パーソル総合研究所

引用について:本調査を引用いただく際は出所を明示してください。出所の記載例:パーソル総合研究所「はたらくソーシャル・リスニング／24年上半期」

※報告書内の構成比の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は必ずしも100%とならない場合がある

## 1

## 24年上半期の投稿増加率上位ワード(上位10ワード)

2024年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2023年 メンション数	2024年 メンション数	増減率 (%)	解説・関連する主な出来事
1	通称使用	6,200	61,950	999.2	自民党総裁選における選択的夫婦別姓を巡る議論のなかで、職場などでの通称使用について多くの言及がなされ、ネットでの議論も盛り上がりを見せた。
2	スポットワーク	5,750	35,700	620.9	昨年从今年にかけて、スポットワーク・スキマバイト市場が大きく伸長。大手プラットフォームの参入や上場など、事業者側の経営動向も大きな話題を呼んだ。
3	カスハラ／カスタマーハラスメント	101,150	580,150	573.6	顧客からの迷惑行為・過剰要求であるカスハラについて厚労省・自治体による条例・規制強化の流れが加速した。各機関の定量的な調査も進み、メディア報道が激増。世間の耳目も集まった年となった。
4	2025年の崖	1,000	5,150	515.0	経産省が2018年のDXレポートの中で、システムの老朽化や人材不足により2025年以降、最大12兆円／年(現在の約3倍)の経済損失が生じる可能性があるとして示した用語。2025年が来年に迫る中で言及が増加した。
5	人手不足倒産	11,750	55,450	471.9	人手不足倒産が過去最高ペースで増加。背景には、建設・物流の長時間労働を規制した「2024年問題」がある。
6	戦略人事	1,350	5,950	440.7	人的資本経営・人的資本開示の流れの中で、中長期の経営戦略と人事戦略の連動が各社で課題に。
7	ガラスの天井	12,150	46,700	384.4	米大統領選挙戦の中で、クリントン元長官がハリス副大統領に対してガラスの天井を破ることを期待。日本企業において進まない女性活躍推進の文脈でも言及が集まった。
8	ギグ・ワーカー	2,300	8,600	373.9	フードデリバリーや配車サービスの運転手など、プラットフォーム経由で仕事を請け負うギグ・ワーカーに対し、アメリカやEUで待遇改善の動きが活発化。日本でも厚労省が2024年度中に指針を出す見込み。
9	整理解雇	8,700	31,450	361.5	自民党総裁選で複数の候補者から解雇規制の緩和がアジェンダ化された。それにより、一時的に日本の解雇規制の在り方に対する議論が活発化。
10	非正規公務員	31,150	94,900	304.7	「会計年度任用職員」と呼ばれる非正規の公務員に対し、待遇の改善を求める動きが広がる。

1

### 24年上半期の投稿増加率上位ワード(上位11-20ワード)

2024年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックは以下。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

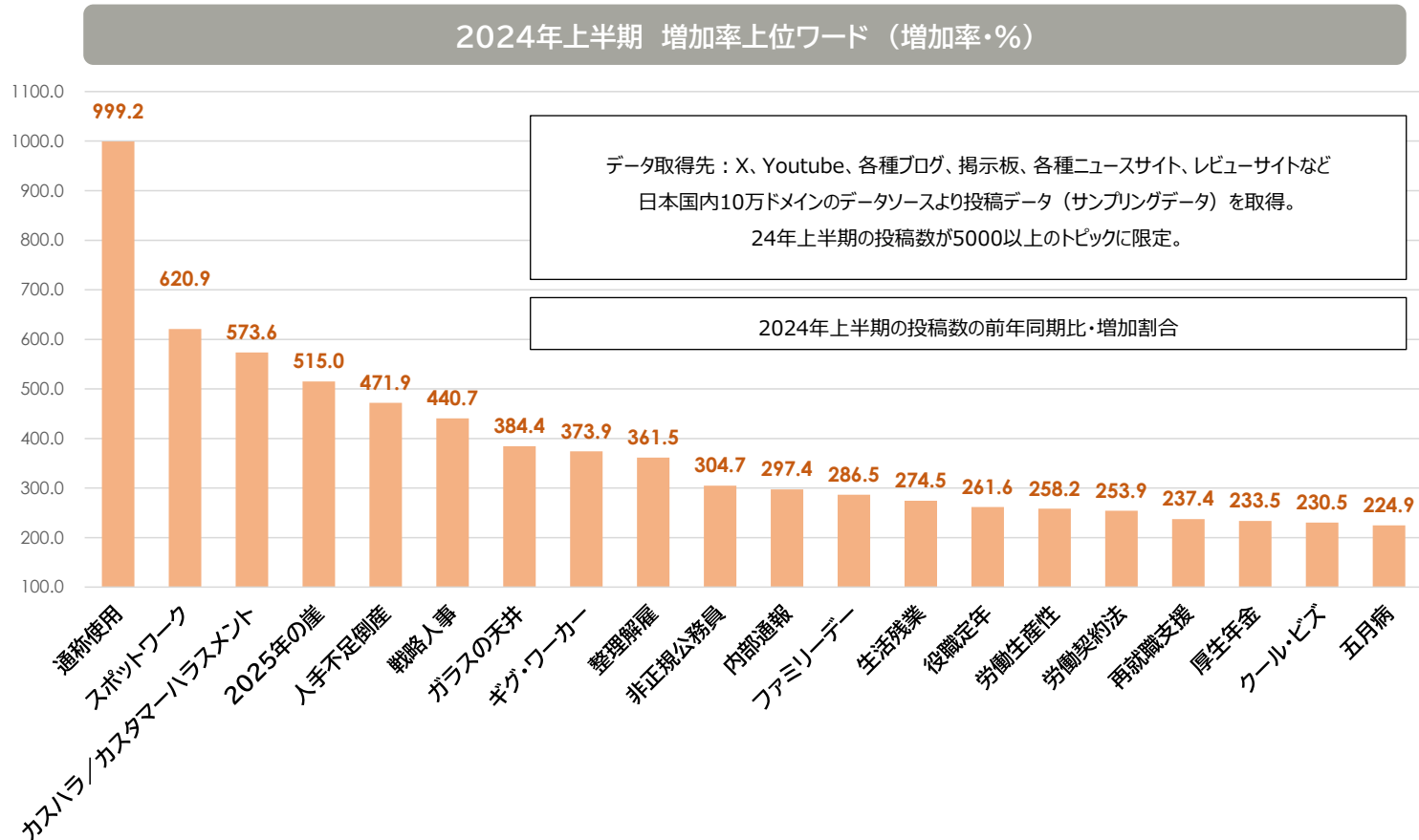
順位	ワード	2023年 メンション数	2024年 メンション数	増減率 (%)	解説・関連する主な出来事
11	内部通報	33,250	98,900	297.4	兵庫県知事をめぐる内部告発などで、公益通報者保護制度への関心が高まり言及が増加。所管する消費者庁は、企業や官公庁側への罰則新設なども含めた対策強化の検討を始めた。
12	ファミリーデー	1,850	5,300	286.5	コロナ禍で実施が中止されていた各社のファミリーデーが相次いで復活。メディアの関心を集めた。家族だけでなくパートナーや友人など、幅広い対象にするのが昨今のトレンド。
13	生活残業	2,350	6,450	274.5	生活残業とは、生活のために残業代を稼ぐためだけの、非承認の残業のこと。大手企業の労働時間制限の中で実質賃金が上がらないことで、生活残業で手取り額を稼ぐケースが散見され話題に。
14	役職定年	10,150	26,550	261.6	大和ハウス、ダイキンなど、役職定年を廃止する大手企業の動向が注目された。
15	労働生産性	36,350	93,850	258.2	生成AIの活用や、テレワークやリスキリングによる労働生産性向上について、各所での多様な議論が展開された。
16	労働契約法	7,600	19,300	253.9	大学におけるベテラン教員の雇止め問題、同一労働同一賃金の議論の中で言及が増加。
17	再就職支援	9,750	23,150	237.4	早期・希望退職者募集が前年と比べ大幅増加。賃上げの裏側で各社が構造改革を加速させ、それに伴い退職者の再就職支援についての言及が増加した。
18	厚生年金	343,000	801,050	233.5	厚生年金に加入するパートタイム労働者の範囲が変更され、従業員51人以上の企業も適用されるように。それに向けてのメディア報道が増加した。
19	クール・ビズ	147,800	340,650	230.5	7月からの猛暑の影響でクールビズへの言及が増加。クールビズの期間を撤廃する自治体や、エアコンの設定温度の見直しの議論も。
20	五月病	388,550	873,800	224.9	5月に春からの疲れやストレスが出やすくなる症状のこと。今年はテレワークからの出社の増加などを背景に、五月病へのメンタルケアが特に話題に上がりやすくなった。

1

## 24年上半期の投稿増加率上位ワード 上位グラフ

2024年上半期において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピックを作画した。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数：該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。



## 2

## 24年上半期の投稿減少率上位ワード(上位10ワード)

2024年上半期において、前年同期からの投稿減少率が高かったトピックは以下。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2023年 メンション数	2024年 メンション数	増減率(%)
1	通勤手当	446,600	55,550	▲ 87.6
2	インボイス制度	2,891,450	374,550	▲ 87.0
3	ブラックバイト	28,550	8,800	▲ 69.2
4	退職金	1,494,050	559,400	▲ 62.6
5	ストック・オプション	41,500	15,750	▲ 62.0
6	ストライキ	875,600	335,250	▲ 61.7
7	労働移動	17,450	6,700	▲ 61.6
8	ハイブリッドワーク	17,900	7,100	▲ 60.3
9	経済連携協定	18,900	7,650	▲ 59.5
10	ジェンダーギャップ指数	188,700	77,900	▲ 58.7

- ✓ 「通勤手当」は昨年、通勤手当不正受給のニュースが相次いだことと言及が増えたが、今年はその反動で減少。「インボイス制度」も昨年の制度開始から今年は落ち着いたトピック。
- ✓ 「ブラックバイト」、「ストライキ」、「バイトテロ」(次頁)、「偽装請負」(次頁)といった特定の事案・事件の報道に引っ張られるワードは、昨年ほど話題にならず。
- ✓ テレワークを巡る議論は落ち着き、「ハイブリッドワーク」「フレックスタイム」(次頁)をめぐる議論は減少。  
しかし9月に入ってからアメリカIT企業の出社増加についての報道が過熱しており今後の言及は増える可能性も。



## 2

## 24年上半期の投稿減少率上位ワード(上位11-20ワード)

2024年上半期において、前年同期からの投稿減少率が高かったトピックは以下。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2023年 メンション数	2024年 メンション数	増減率(%)
11	偽装請負	23,150	9,950	▲ 57.0
12	フレックスタイム	32,350	14,150	▲ 56.3
13	次世代リーダー	11,550	5,100	▲ 55.8
14	ベーシック・インカム	254,100	115,450	▲ 54.6
15	クラウドソーシング	48,200	22,000	▲ 54.4
16	WLB	13,350	6,250	▲ 53.2
17	税制改正	78,150	37,550	▲ 52.0
18	女性活躍	188,950	92,650	▲ 51.0
19	バイトテロ	81,100	39,800	▲ 50.9
20	内定取り消し	53,250	26,300	▲ 50.6

✓「女性活躍」や「ジェンダーギャップ指数(前頁)」、「WLB(ワークライフバランス)」は、DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)といったより大きな多様性を示す議論が進む中で、やや使用頻度が落ちてきていることが推察される。

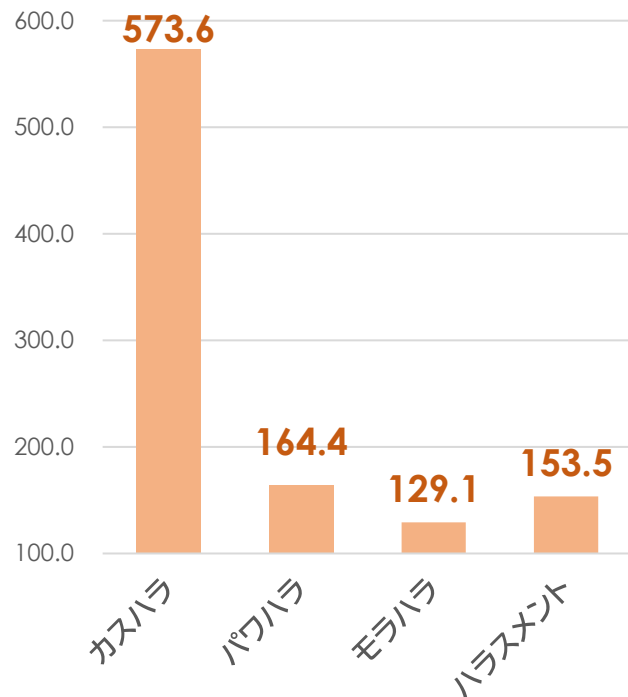
3

### 24年上半期のピックアップ・ワード①ハラスメント関連のワード

2024年上半期において特に目立ったトレンドについてピックアップした。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

2024年上半期 投稿増加率(%)



- ✓ 上半期は、新たに注目された「カスタマーハラスメント」だけでなく、「パワハラ」・「モラハラ」といったハラスメント全体の言及数が増加傾向が見られた。
- ✓ 特にカスハラについては、今年最も話題を集めたワードの一つとして、下半期にも前年同期で増加が見込まれる。
- ✓ 東京都では条例が可決するなど、カスハラについて進む規制強化の流れの中で、労働者の安全配慮義務の観点から対応を迫られる企業はここから多くなることが予想される。

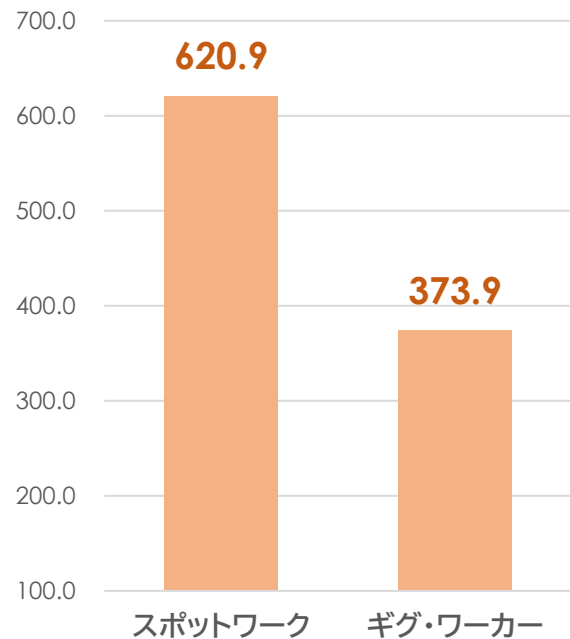
3

### 24年上半期のピックアップ・ワード②スポットワーク関連のワード

2024年上半期において特に目立ったトレンドについてピックアップした。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

2024年上半期 投稿増加率(%)



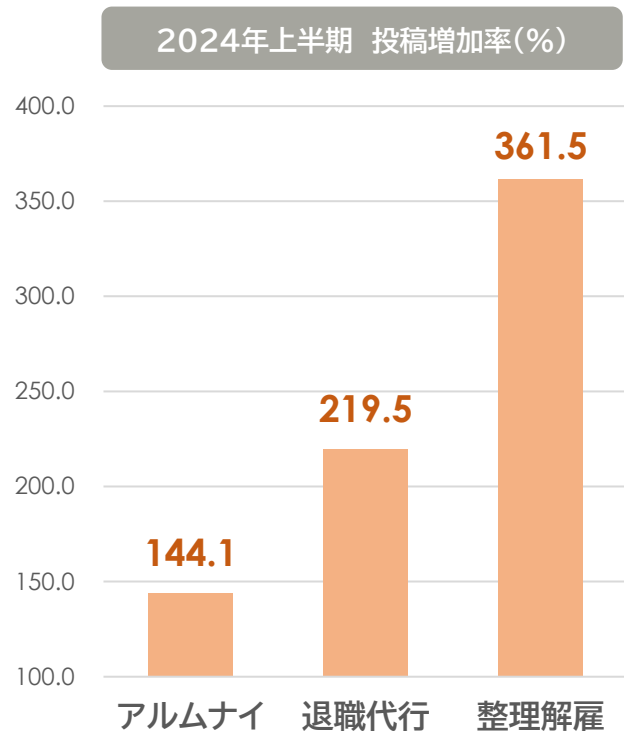
- ✓ 「スポットワーク」の伸長は昨年から今年にかけての大きなトピックだ。アプリでマッチングを完結させるスキマバイトのプラットフォームは、人材サービス業のみならず他業界からも参入が活発化。報道の効果もあって利用者が大きく伸び、言及数も爆発的に増加した。
- ✓ 新しい柔軟な働き方として関連するのは、主に業務委託のフードデリバリー職などに使われる「ギグ・ワーカー」への言及だ。こちらはアメリカやEUでギグワーカーの労働者性を巡って待遇改善の動きが活発化。日本でも厚労省が2024年度中に指針を出す見込みであり、下半期も上昇が見込まれる。

3

### 24年上半期のピックアップ・ワード③退職・離職関連のワード

2024年上半期において特に目立ったトレンドについてピックアップした。

※24年上半期のメンション数が5000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。



- ✓ 2024年は、様々な角度から退職・離職への注目が集まった。
- ✓ 「コーポレート・アルムナイ」のトレンドは、円満退社やつながり継続のためのオフボーディング＝組織としての離職プロセスの設計が近年注目されており、上半期も増加傾向。
- ✓ また、大きな話題を呼んだのが、「退職代行」サービスだ。労働者の退職手続を代行する民間の退職代行業者・利用者がともに大きく増加した。賛否が分かれる話題でもあり、今後の動向も注目される。
- ✓ 2024年9月に行われた自民党総裁選では、「解雇規制緩和」がアジェンダ化された。整理解雇や早期退職に関する議論が一時的に極めて高まった。

昨年が続いて実施したソーシャル・リスニング分析だが、今年の上半期多様なトピックが話題になった。

目立ったのは、顧客からの迷惑行為・過剰要求である「カスハラ」についての話題だ。厚労省・自治体による条例・規制強化の流れや定量的な調査の進展もあり、メディア報道が激増した。カスハラについてはパーソル総合研究所も調査を実施。広範囲な負の影響が確認されている(カスタマーハラスメントに関する定量調査)。

また、「スポットワーク」の伸長も、昨年から今年にかけての大きなトピックだ。アプリでマッチングを完結させるスキマバイトのプラットフォームは利用者・就業者ともに大きく伸びており、それに伴って言及数も爆発的に増加した。

また、2024年は「**整理解雇**」「**退職代行**」など、退職・離職への注目が様々な角度から集まった年でもあった。自民党総裁選では解雇規制緩和が複数の候補者からアジェンダ化され、議論が活発化した。長期雇用の安定感が失われていく中で、**離職行動に対して労使ともに改めて捉え直す機運**として見ることができよう。

昨年から連続して上昇ランキング上位に入ったのは、「**人手不足倒産**」である。コロナ禍の各種補助が終わったことからの反動や、建設・物流業界の労働時間制限が開始されたこと、その他賃上げやコストアップにより、倒産全体が増えてきている。倒産後の企業から労働移動がどう起こるのかも注目される。



PERSOL

パーソル 総合研究所

# 過去のソーシャル・リスニング分析結果

株式会社パーソル総合研究所 シンクタンク本部

## 過去の分析結果

### [過去結果] 2023年度(年間)の動向

#### 2023年度投稿増加率上位ワード(上位20ワード)

2023年度(2023年4月1日-24年3月31日)において、前年同期からの投稿増加率が高かったトピック上位。

※23年度のメンション数が10000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2022年度 メンション数	2023年度 メンション数	増減率 (%)
1	ガラスの崖	1,000	23,850	<b>2385.0</b>
2	通勤手当	32,500	489,600	<b>1506.5</b>
3	2024年問題	57,600	473,250	<b>821.6</b>
4	ソーシャルスキル	9,350	45,100	<b>482.4</b>
5	在留資格	423,750	1,929,900	<b>455.4</b>
6	特定技能	119,300	540,550	<b>453.1</b>
7	扶養控除	754,000	3,104,150	<b>411.7</b>
8	オワハラ	3,400	13,400	<b>394.1</b>
9	人手不足倒産	8,800	31,800	<b>361.4</b>
10	定年後再雇用	3,300	11,850	<b>359.1</b>

順位	ワード	2022年度 メンション数	2023年度 メンション数	増減率 (%)
11	65歳定年制	3,100	10,300	<b>332.3</b>
12	高齢者雇用	3,450	10,950	<b>317.4</b>
13	インテグリティ	9,200	24,350	<b>264.7</b>
14	内部通報	31,800	78,800	<b>247.8</b>
15	業務請負	4,650	11,500	<b>247.3</b>
16	外国人労働者	410,350	1,000,950	<b>243.9</b>
17	偽装請負	18,450	43,500	<b>235.8</b>
18	年収の壁	88,350	207,000	<b>234.3</b>
19	3K労働	7,750	17,600	<b>227.1</b>
20	マイクロアグレッション	29,300	61,900	<b>211.3</b>

# 過去の分析結果

## [過去結果] 2023年度(年間)の動向

### 2023年度投稿減少率上位ワード(上位20ワード)

2023年度(2023年4月1日-24年3月31日)において、前年同期からの投稿減少率が高かったトピック上位。

※23年度のメンション数が10000以上のトピック。メンション数:該当キーワードの投稿回数。1回の投稿文中に複数回使われている場合は、複数回分をカウント。

順位	ワード	2022年度 メンション数	2023年度 メンション数	増減率(%)
1	産後パパ育休	89,050	15,600	▲ 82.5
2	通称使用	39,550	10,100	▲ 74.5
3	パワハラ防止法	43,700	11,550	▲ 73.6
4	就職留年	41,550	12,100	▲ 70.9
5	インフレ手当	118,700	42,800	▲ 63.9
6	雇調金	38,100	13,900	▲ 63.5
7	職域接種	84,900	32,050	▲ 62.2
8	アルバイト・パート	127,400	52,350	▲ 58.9
9	円満退社	78,350	32,900	▲ 58.0
10	産業カウンセラー	28,300	12,450	▲ 56.0

順位	ワード	2022年度 メンション数	2023年度 メンション数	増減率(%)
11	ABW	317,750	142,800	▲ 55.1
12	ダイバーシティ & インクルージョン	23,550	10,600	▲ 55.0
13	学び直し	552,350	256,400	▲ 53.6
14	ワーケーション	220,850	102,950	▲ 53.4
15	複業	216,250	104,000	▲ 51.9
16	ノー残業デー	113,200	54,900	▲ 51.5
17	パラレルキャリア	28,450	13,800	▲ 51.5
18	DX人材	53,700	28,150	▲ 47.6
19	五月病	772,400	405,450	▲ 47.5
20	勤怠管理	72,550	38,200	▲ 47.3